

木津川市行財政改革推進委員会 開催結果要旨

会 議 名	第 14 回木津川市行財政改革推進委員会		
日 時	平成 23 年 8 月 27 日 (土) 午後 1 時 30 分から午後 4 時 30 分	場 所	市役所 1 階 住民活動スペース
出 席 者	委 員 (出席：■) (欠席：□)	■澤井委員 (会長)、□新川委員 (副会長) ■竹田委員、■山岡委員、■山口委員、■芳野委員 ■笠井委員、■清水委員、■杉本委員	
	その 他 出 席 者	代次総務部長、中島財政課長、久保財政課主任 京都府立大学インターンシップ 3 名 (仮屋、伊藤、山岡) 渡辺生活環境部長、藤田保健福祉部長、 (まち美化推進課) 田中課長、今中主幹、若狭主任 (まち美化推進課) 田中課長、山本主幹 (人権推進課) 川崎課長、山田主幹、小西課長補佐 (子育て支援課) 福島課長、松田園長、竹谷主幹、 波多野係長	
	庶 務	松尾室長、奥田係長	
傍 聴 者	31 人		
議 題	1 開会 2 会長あいさつ 3 会議記録署名委員の指名 4 議事 (1) 審議 ①事業仕分けについて 1) リサイクル研修ステーション管理事業 2) 資源ごみ・リサイクル・減量化事業「古紙回収補助金」 3) 女性センター運営事業 4) やましろ保育園管理事業「バス運行業務委託」 (2) その他		

	5 閉会
会議結果要旨	<p>◇会議記録署名委員に「杉本委員」を選出した。</p> <p>◇次の4事業について、「事業仕分け」を実施した。</p> <p>①「リサイクル研修ステーション管理事業」 結果：全員一致で「市実施（改善）」と決定した。</p> <p>②「資源ごみ・リサイクル・減量化事業（古紙回収補助金）」 結果：全員一致で「市実施（改善）」と決定した。</p> <p>③「女性センター運営事業」 結果：全員一致で「市実施（改善）」と決定した。</p> <p>④「やましろ保育園管理事業（バス運行業務委託）」 結果：多数決で「不要」と決定した。</p> <p>なお、各委員からの意見等は会議経過要旨のとおり。</p> <p>◇第15回委員会を「平成23年10月16日」に開催し、議題については「事業仕分け」とすることを確認した。</p>
会議経過要旨	<p>◎会長あいさつ</p> <p>本日の事業仕分けの事業は、1 リサイクル研修ステーション管理事業、2 資源ごみリサイクル減量化事業・古紙回収補助金、3 女性センター運営事業、4 やましろ保育園管理事業・バス運行業務委託についてである。市民目線でまた外部から市の実施している事業について、忌憚のない意見を出して評価していただく。どうぞよろしくお願ひするとの挨拶があった。</p> <p>◎会議記録署名員の指名</p> <p>会長から会議記録署名委員に「杉本委員」が指名された。</p> <p>◎議事</p> <p>(1) 審議</p> <p>①事業仕分けについて</p> <p>木津川市行財政改革推進委員会の事業仕分け実施要領に基づき、次のとおり</p>

「事業仕分け」を実施した。

なお、各委員から発言のあった質問、意見・提案は次のとおり。

【「◇：質問」・「◆：意見・提案」・「⇒：説明または回答」を表す。】

1) 「リサイクル研修ステーション管理事業」

【事業説明】

資料1に基づき、まち美化推進課担当者から事業説明を受けた。〔説明の中でリサイクル研修ステーションをリサ研と省略することの承諾を得た。〕

【質疑・議論】

◇資料1、10頁の今後の方向性に記載のイメージチェンジとは具体的に何をするのか。また、改革プランにある来館者数を増やすための植栽によるイメージアップとはどういうものか。

⇒外観面については、従来からリサ研の建物がわかりにくいという指摘があり、看板の新設と駐車場部分にリサ研玄関口までの導線を設置した。また、緑化協会の事業で余った苗をリサ研前の花壇に植えて整備を行い、一般の方に来館してもらい易いようにイメージアップを図っている。

◇条例に研修ステーションの事業とは地球環境保全、温暖化防止のための研修及び実践活動とあるが、現状の運営事業が目的に沿ったものになっているのか。

⇒地球温暖化対策が他市に比べて遅れていたが、平成21年度に実行計画を策定し、平成22年度末に目標数値を設定したところである。今後は市民向けの対策をとっていかねばならないと考えている。

◇環境教育の実践について具体的には。

⇒エコリーダー「くるっと」はごみの減量化に特化した推進員で、また、こどもエコクラブは自然観察を中心に取組んでおり、サポーターには温暖化対策に詳しい方もおり、日々の活動の中で地球温暖化についても学んでいく。

◇平成22年度の来館者数が増えた要因は。

⇒市内の各小学校へのPRの成果であり、毎年来館されている小学校も増えて定着してきた。また、一般来館者数の把握の強化によるものも一因である。

◇ごみの減量化・分別はまだ不十分であり、具体的に事業展開をする必要がある

のではないか。

⇒3Rの推進や特に子どもの環境教育については既に具体的に事業展開をしている。燃やすごみの減量化については、廃棄物減量等推進審議会で検討されており、木津川市内での燃やすごみの中にどれだけのリサイクルができるものが含まれているかを調査して、削減の余地があれば、より一層市民に啓発していく。

◇「くるっと」関連の事業で毎月の開催されている役員会・定例会ではどのような内容をされているのか。

⇒役員会・定例会では「くるっと」の取り組み等を紹介している「くるっとだよ」の作成や事業の計画・準備など会議中心の内容だったが、今年度から生ごみ減量化に向けた取り組みなど実践的な活動に転換している。

◇昭和48年建築のかなり古い建物だが、ここでしか活動できないものか。

⇒いろんな実践活動があるので、市役所の会議室では難しいが、現施設でないとだめなわけではない。将来的には、今後建設するクリーンセンターに併設することも一つの選択肢であると個人的には考えている。

◇来館者のうち学校からの見学やエコクラブ、「くるっと」を除くと来館者数は少ないのでは。一般の来館者もリユースコーナーが多いのでは。

⇒平日の来館者数は10～20人程度でリユースコーナーの利用が多い。

◇リサイクル研修センター運営事業全体の予算額はいくらか。

⇒平成22年度予算は全体で809万2千円。

【評価・まとめ】

◆費用対効果を考えて事業展開すべきであり、かなりの部分で運営事業の改善が必要である。リサ研の事業として、もっと地球温暖化等の研修等をするべきである。

◆事業内容の抜本的な見直しが必要。環境のための広報教育施設は必要だと考えるが、必ずしもこの施設で行なう必要がないのでは。利用者アンケートを実施するなどソフト面の充実とハード面を一緒に考えていくべきである。

◎採決の結果、全員一致により4番「市実施（改善）」となった。

2) 「資源ごみ・リサイクル・減量化事業（古紙回収補助金）」

【事業説明】

資料1に基づき、まち美化推進課担当者から事業説明を受けた。

【質疑・議論】

◇燃やすごみの収集量は横ばいで、古紙類集団回収量は若干減少している。古紙類回収量の増加に向けて積極的に進めていかなければならない。集団回収団体の掘り起こしのPRは市広報以外に具体的にどのような方法を考えているのか。

⇒人口増により、ごみの量は増えていく可能性はある。木津川市の1人当たりの生活系ごみ量は府平均よりも低い、木津川市より低い団体もあり、その事例も参考にしながらまだまだ減量化していけると思っている。また、廃棄物減量等推進審議会において減量施策について検討していただいております、更なる燃やすごみの減量を目指していきたい。また、集団回収団体の掘り起こしは、地域長会議へ出向いて事業の説明を行い、周知を図っている。

◇この事業に参加してもらえる団体がどれくらいあるのかを把握しているか。事業のPRについてHP等で受付をしている等の受け身の印象を受けるが、もっと積極的に展開していく予定はあるのか。

⇒どのような団体であっても受付をしているので、各種団体の数は把握していない。PRについては今後改善していく。

◇事業開始から20年が経過しており、古紙類回収による財政効果があるのならどうしてもっと急いで事業を進めていかないのか。

⇒定着している事業であるが、新たな入居地区もあり、その地域でも集団回収に取り組んでもらえるように周知するとともに、燃やすごみに含まれている古紙布類の分別を住民に啓発することにより燃やすごみの減量化を進めていく。

◇そもそも補助金を出して集団回収する必要があるのか。また、補助金単価の減額は考えているのか。

⇒単価5円を直ちに下げるとは考えていない。

【評価・まとめ】

◆有効な事業とは思いますが、市として進めていきたいという努力の姿勢が見えにくく、もっと積極的な対応があってもいいのかなと感じる。

◆PRがまだまだ不足している。集団回収未実施の地域にも行政が積極的にに関わり、更なるPRにより事業を進めていく必要がある。

◆燃やすごみの中に古紙類がまだまだ含まれていることを住民に積極的に周知し、ごみの減量化についてメリハリのついたPRを。

◎採決の結果、全員一致により4番「市実施（改善）」となった。

3) 「女性センター運営事業」

【事業説明】

資料1に基づき、人権推進課担当者から事業説明を受けた。

【質疑・議論】

◇管理事業の決算で浴場に係る光熱水費のウエイトが高いようだが、浴場の利用者数は何人くらいで、また、料金は徴収しているのか。

⇒男性1名、女性3名の4名の方で毎週土曜日に同じ方が利用されており、利用料金は無料である。

◇貸館の使用料はどのようになっているのか。

⇒女性センター設置目的に合ったものは無料、目的外の使用については特に市長が認めた場合に利用いただいております、この場合は有料としている。

◇ソフト面と施設のハード面の整合性はとれているか。利用される年齢層によりニーズは異なると思うが、各講座のアンケート結果で年代別の分析をして事業等の運営はしているのか。

⇒ソフト面については事業・講座・相談業務を考えており、年間の利用者数から施設の維持管理に係る経費を割り出しており、一定の整合性はとれていると考えている。また、アンケートにより利用者の年齢は把握しているが、年齢を重視した講座を開いている訳ではなく、男女共同参画を第一に考え、年齢・性別を超えた講座を実施している。

◇女性センター事業の啓発としての一般市民を対象とした講演は実施しているのか。

⇒職員研修を兼ねてDVやパワハラ等の講演を行っている。

◇相談業務では相談内容が異なると思うが、どのように振り分けているのか。
⇒相談内容により各担当課や関係機関、若しくはDV等の相談は専門家につなぐなど相談の窓口になっている。

◇目的の中で働く女性について謳われているのに、就労・雇用関係の相談が1件と少なく全体の相談件数も少ない。今後の相談業務の方向性と相談件数を増やすための今後のPRの方法について示してもらいたい。

⇒講座の中で就労関連の講座を開催し、女性の就労支援を行っている。相談事業の開設は月2回行っているが、開設日以外でも相談があれば随時、指導員や職員が対応している。また、相談窓口で対応する指導員は専門家ではないが、相談指導に関する研修に参加し、一定の知識を習得している。また、相談員の技量を越えた精神的な問題は精神科医を相談員として招いて対応している。

◇1階の相楽老人福祉センターの運営事業はどこがしているのか。活用方法は。

⇒所管課は他の老人福祉センター同様に高齢介護課だが、人権推進課で管理している。1階施設の今後の活用方法については、人権推進課としては今のところ考えていない。

◇28頁の総合評価の効率性、目的・対象・手段の妥当性が事業展開をしているのに評価が「1」になっている理由は。また、32頁の女性センターの利用状況が平成22年度と平成23年度の半年間で減少している理由は。

⇒評価を「1」にしている理由は管理事業経費に関して浴場の運営経費が大きく、少ない利用者数から考えると評価は低くなる。また、女性センター全体の利用者数は平成23年度は半年間ではなく4月から6月までの3ヶ月間の数であり、昨年度に大きく増加したのは隔年で開催している福祉会館まつりの参加者によるものである。

【評価・まとめ】

◆事業内容は女性の自立支援という観点から国家資格等の取得を目指すものを考えていくのがよい。

◆女性センターと老人福祉センターの歪な管理形態について指定管理制度も含めた総合的な管理の検討が必要ではないかと考える。講座については目的と対象者のニーズにマッチしたカリキュラム内容にするよう検討が必要。相談事業はス

ピーディで適切に対応できるように関係先との連携が必要であり、相談希望者の掘り起こしのため積極的な啓発・普及活動が重要である。

◎採決の結果、全員一致により4番「市実施（改善）」となった。

4) 「やましろ保育園管理事業（バス運行業務委託）」

【事業説明】

資料1に基づき、子育て支援課担当者から、事業説明を受けた。

【質疑・議論】

◇問題点なり課題については説明で十分わかったが、今までなぜ廃止をされなかったのか。その理由は。また、通園バスを利用されていない方からの不満はないのか。

⇒山城町の時代に住民が十分にご理解をいただいたなかで3園を統廃合をして、住民が一丸となって無料で送迎バスを出そうということで納得されて今まで来ていたので、その経過もあり、市となってもこのまま存続してきた。利用されていない方は早朝・延長保育や3歳未満の方なので不満は聞いていない。また、早朝・延長保育について利用料の上乗せはない。また、遠足等にもバスは使用している。

◇送迎バス利用規程の第2条対象児童のなかで、家庭の事情により、送迎困難な家庭とあるのは何をいうのか。

⇒送迎する車がないとか送迎できる人がいないなどの事情によるものである。

◇バスを利用しない場合の送迎時間はどれくらいかかるのか。

⇒園から遠いところで南北それぞれ2km程なので、自動車ならば5分から10分程かかる。

◇市内の他の保育園においてバス送迎をしているところはあるのか。

⇒3園統合の経過があるため、バスの送迎はやましろ保育園のみである。

◇資料40頁の総合評価欄の目的・対象・手段の妥当性が「1」になっており、大切な幼児を送迎するという事業なのにこの評価をするのには疑問を感じる。もっと高い価値観をもってするべきで、いろんな問題があれば具体的な改善策を検

	<p>討していくことが必要ではないか。また、事業を廃止した場合の問題点は。</p> <p>⇒市内 13 園の内 1 園のみ実施している事業であるため評価を「1」にしている。</p> <p>廃止した場合の問題点は、保護者が送迎に困られる、また、現状の駐車場では少ないので駐車場の確保が必要となってくる。</p> <p>◇統廃合当時に送迎バスの運行期限を定めていなかったようだが、これまでに廃止等の議論がなかったのが疑問である。今まで大きな事故がなかったと聞くが事故等があれば市として大きなリスクを背負っていることになるが、このリスクを回避するために保険等は掛けているのか。</p> <p>⇒安全には自信を持って運行している。また、保険は補償額が無制限の保険に加入している。</p> <p>◇何となくやめるやめないという議論が続いているが、逆にこの事業を子どもが集まるまちづくり、母親が子育てし易いまちづくりに活用していく考えはないか。</p> <p>⇒子育てNo.1 ということで他のいろんな事業を新たに展開してきており、このバス運行事業は今まで保護者に喜んでもらってきたが、市となって 13 園の中の 1 園だけがこの状況なので違ったことに展開していかなければならないのかなど思っている。</p> <p>【評価・まとめ】</p> <p>◎採決の結果、多数決により 1 番「不要」となった。</p> <p>(2) その他</p> <p>◎ 第 15 回委員会を「平成 23 年 10 月 16 日」に開催し、議題については「事業仕分け」とすることを確認した。</p>
<p>その他特記事項</p>	<p>特になし</p>